

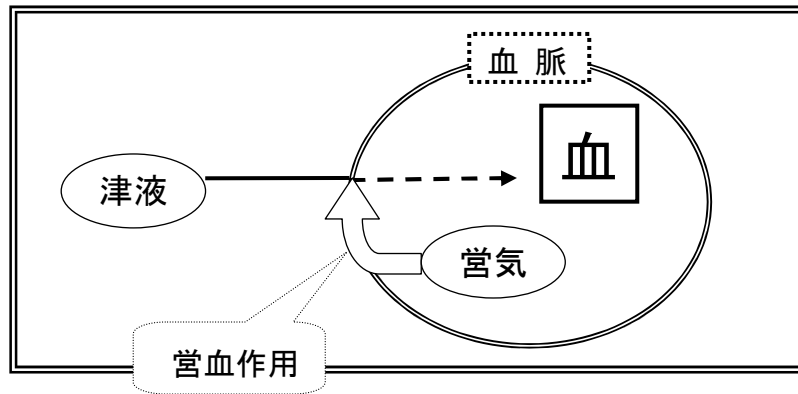
第07講 【 気血津液 II 】 教科書 P.33・34

2. 血

: 血とは血脈中を流れる赤色の液状物質である。

生成	<p>[津液] と [営気] からできる。</p> <p>* 津液が血脈に入ると直ちに営気の営血(気化)作用により血に転化される為、血脈中には血と営気のみが存在し津液は存在しない。</p>
分布	<p>[血脈内]</p> <p>* 血脈外に流出した血 → 離経の血</p> <p style="margin-left: 200px;">{ 開放性 - 出血 非開放性 - 瘀血</p>
働き	<p>i. 養形：臓腑・組織・器官を栄養・滋養する。</p> <p style="margin-left: 20px;">* 皮膚や粘膜・爪等に赤味や艶がでる。</p> <p style="margin-left: 20px;">* 舌体も淡紅色に</p> <p>ii. 養神：神とは人の精神・意識・思考活動を指し、血はこれらの神の活動を正常に保つための重要な物質的基礎である。</p> <p style="margin-left: 20px;">* 意識ははっきりし、頭脳明晰、睡眠正常</p>

『 血生成の模式図 』



3. 津液

: 津液とは人体中の正常な水分の総称。

- { 正常な水分の総称： 津液
- { 異常な水分の総称： 痰飲

生成	水穀 → (胃・脾) → 水穀の精の水様部分 = 津液
分布	全身
働き	全身の組織を滋潤

『 津と液の比較 』

	属性	質	流動性	分布範囲
津	陽	薄くて透明	大	大；皮膚・粘膜・血脈・臓腑
液	陰	濃くて粘稠	小	小；脳・骨・関節腔・髄

[気血津液の相互関係]

1. 気と血の関係

1) 気は血の帥 [気の血に対する作用]

- ① 気能行血 : 「気帥血行」、気が血の運行を推動する。
“ 気行則血行、気滞則血瘀 ”
- ② 気能摂血 : 気は血を固摂し血脈から漏れ出さないようにする。
- ③ 気能生血 : 血は気の働きによって生成される。

2) 血は気之母 [血の気に対する作用]

- ① 血能載気 : 血は気の担体である。
* 大量出血 → 血の流出と同時に気も失われる
“ 気随血脱 ” 「 気血両虚 」
∴ 治療時には補血と同時に補気も必要である。
- ② 血能斂気 : 血は気を収斂 (引き締め収める) し、気の消散を防ぐ。

2. 気と津液の関係

1) 気の津液に対する作用

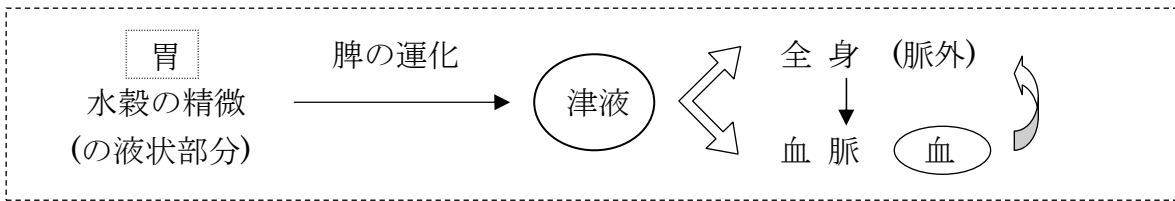
- ① 気能生津液 : 津液は気の働きによって生成される。
- ② 気能行津液 : 気が津液の代謝を推動する。
- ③ 気能摂津液 : 気は津液を固摂することにより不必要な消散を防いでいる。

2) 津液の気に対する作用

- ①津液能載気 : 津液は気の担体である。
 * 大量出汗 → { 口渴等 [津液不足]
 四肢倦怠感・少気懶言等 [気虚] } ⇒ 滋津液・補気
- ②津液能斂気 : 津液は気を収斂し気の消散を防ぐ。

3. 血と津液の関係

【津血同源】



* 大量出血 ⇒ 脈内の血が減少 ⇒ 血虚は緩和されるが津液は減少
 ↳ 脈外の津液により補充

∴ 発汗法は厳禁

* 大量発汗 ⇒ 津液の不足 ⇒ 津液不足は解消されるが血は減少
 ↳ 脈内から津液が滲出し補充

∴ 放血法は厳禁

【練習問題】

問1. 次のうち脈中をめぐるのはどれか。

1. 津
2. 液
3. 衛気
4. 営気

問2. 津液について誤っているのはどれか。

1. 体温調節に関与する
2. 心により代謝が促進される
3. 皮膚を潤す
4. 水穀から分離される

問3. 津液について誤っているのはどれか。

1. 脳髄を養う。
2. 骨に潤いを与える。
3. 皮膚に潤いを与える。
4. 脈中を流れる。

問4. 衛気について誤っているのはどれか。

1. 水穀の悍気のことをいう。
2. 脈外をめぐる。
3. 腠理の開闔を行う。
4. 先天の精から得られる。